COVID-19 禍での教員養成科目への J-POSTL 導入事例

竹田　里香（立命館大学）

要旨

大阪にある私立大学の教員養成課程における「小学校英語」の授業内で，J-POSTL エレメンタリーを 2 か年に渡り導入した。コロナ禍で 2 年ともオンデマンド形式での授業であったため，対面で導入することに比べて十分な説明ができない等の困難なところがあった。対面よりは難しかったとは言え，J-POSTL エレメンタリーを導入する一つの目的である自己省察ができる学生を育てるという目的は，ある程度達成できたのではないかと考える。この導入事例報告では，2 年間の導入方法（1 年目と 2 年目では違った方法で導入）と学生のデータや振り返りから考察を加える。振り返りから，良かった点としては，学生がこれからの教員としての指針が分かった，まだまだ自分には足りないものがあるのが分かったという点，課題としては，教壇に立つという経験が少ない中で，記述文が想像できないといったものであった。

J-POSTL，自己省察，COVID-19，オンデマンド型授業，Zoom

1．実践の背景と概要

1.1　実践の背景

本実践の大学は，児童保育学科と乳児保育学科の 2 学科を持つ大学で，児童保育学科では卒業時に保育士，幼稚園教諭，小学校教諭，特別支援学校教諭の４つの資格を取得できる。規模として，児童保育学科は毎年 100 名前後，乳児保育学科は毎年 70 名前後の入学生がある。児童保育学科の卒業生の約 9 割は保育士，幼稚園，小学校の３つの免許を取得して卒業する。よって，小学校外国語の内容論，指導法とも必須科目となっている。指導体制は 2 名の非常勤教師により内容論と指導法を別々に担当している。文部科学省（以下「文科省」）に提出のカリキュラムを基本としているが，教員によってアレンジができる状況にある。実践者は，「児童英語ワークショップ」という科目名で小学校英語を 5 年，教員養成課程で内容論 2 年，方法論 1 年の教歴を持つ。また，研究歴は約 10 年，小学校外国語が導入される前から小学校外国語支援員と

して現場で指導を続け，試行錯誤を繰り返し，小学校外国語に必要なものは何かを探ってきた。J-POSTL エレメンタリーに関しては，自己評価記述文特定諮問委員として関わり J-POSTL の重要性に感動し,教員養成に関わる学生には必ず伝えたいと考えた。

1.2　実践の概要

実践講座名は，2020 年度，2021 年度の 2 年間にわたり実践した「小学校英語（内容論）」の半期 15 回の授業である。ただし，2021 年度は学期中の授業ではなく，4 日間の集中講義での授業であった。使用テキストは『新編小学校英語教育法入門』(2017, 樋口忠彦他，研究社）と『Let's try! 1,2』(文部科学省)，J-POSTL エレメンタリーの暫定版（2020 年度）と J-POSTL エレメンタリー完成版（2021 年度）である。履修人数，使用箇所，使用内容は表 1 を参照。

表 1
2020 年度，2021 年度の使用 J-POSTL，履修人数，使用箇所と使用内容

	使用 J-POSTL エレメンタリー	履修人数	使用箇所	使用内容
2020 年度	J-POSTL エレメンタリー（暫定版）	130 名	本書の使い方（p4～），自分自身について(p7～)，自己評価記述文（p10～54)，オンデマンドのビデオ内にて説明	環境・授業計画・授業実践では，記述文の中から自分が大切にしたいものを３つ選んでその理由,教授法では,記述文を選んで具体的活動を考える，自立学習では，自立に向かわせるために何が必要かを考える,評価では，何を持って見とるかを考える。
2021 年度	J-POSTL エレメンタリー（完成版）	120 名	J-POSTL の紹介動画視聴，リフレクション(省察)の意義について（p. 9～)，自分自身について(p. 7～)，小学校英語指導者の資質・能力について(p. 8)，自己評価記述文の	Zoom を用いて，リフレクション（省察)の意義についてと,自分自身について，小学校英語指導者の資質・能力についてグループディスカッションの後，全体でシェアを行わせた。模擬授業の指導案作成から模擬授業時に授業法の中のどの記述文を意識して行ったか及び工夫をしたかを指導案に書く。

			Ⅱの教授法（pp. 16～26）	

次に，J-POSTL エレメンタリーの使用目的について 2 点述べる。1 点目は，自分のことを客観視できるようになるために，自己省察の意義を知り，省察の習慣をつける事，2 点目は，小学校教員として小学校外国語教育を行う上でどんな視点をもっておくべきかを知る事である。

日本の教員養成システム自体にも関わってくるが，教育実習（小学校では 1 か月，中学校では 3 週間，高校では 2 週間）の期間が極端に短く，採用になった途端一人前の教員として授業を始める必要があるが，広い視点を知っているのと知らないでいるのとは雲泥の差があると考え，J-POSTL エレメンタリーに教員養成課程で触れておくことに重要な意義があると考える。

２．実践事例

実践事例の内容については，1.2 の概要で述べたが，ここでは，詳細にシラバスと共に J-POSTL エレメンタリーの使用部分と指示内容に関して述べ，学生からのデータや振り返りから，考察を加えていく。

2.1　2020 年度の実践

表２
2020 年度「小学校英語」のシラバスと J-POSTL エレメンタリー使用箇所及び指示内容

小学校英語			
Week	Content（General）	J-POSTL の頁	J-POSTL 指示内容
Week 1	ガイダンス・小学校外国語活動の歴史・小学校外国語活動の目指すもの・外国語教育の意義	p. 7	「自分自身について」を読み，過去の英語学習体験を振り返ってみましょう。①良かったと思う授業内容やその方法と理由，②良くなかったと思う授業内容や方法とその理由について書きましょう。
Week 2	第 2 言語習得理論・発達心理学		

Week 3	教授法①	pp. 17-20	「教授法」の中の①話す活動（やり取り），②話す活動（発表），③書く活動，④聞く活動を見て，記述文を一つ選んで具体例を考えて書きましょう。
Week 4	教授法②	pp. 21-26	「教授法」の中の①読む活動，②文法，③語彙，④文化を見て，記述文を一つ選んで具体例を考えて書きましょう。
Week 5	Team Teaching・クラスルーム English	pp. 35-40	「授業実践」のセクションを見て，その中で自分が大切にしたいものを3つ選んでその理由を書きましょう。
Week 6	絵本	pp. 11-16	「教育環境」のセクションを見て，その中で自分が大切にしたいものを3つ選んでその理由を書きましょう。
Week 7	歌・チャンツ・ナーサリーライム・マザーグース		
Week 8	教材・教具		
Week 9	評価	pp. 48-54	「評価」のセクションを見て，その中で自分が大切にしたい記述文を選んで，どこで見とるかを考えて書きましょう。
Week 10	指導案作成・授業観点の視点	pp. 30-34	「授業計画」のセクションを見て，その中で自分が大切にしたいものを3つ選んでその理由を書きましょう。
Week 11	異文化理解・CLIL	pp. 41-47	「自立学習」のセクションを見て，児童を自立に向かわせるに何が必要かを考えて書きましょう。
Week 12	模擬授業①		
Week 13	模擬授業②		
Week 14	模擬授業③		
Week 15	模擬授業④	p. 8	「自分自身について」の中の「小学校英語指導者の資質・能力について」をみて，今までの授業すべてを振り返り，項目を足してみましょう。

2020 年度は，2020 年度は全面オンデマンドであったため，動画で毎回の講義を撮り，学生はその動画を視聴してレポートの課題を提出する形態で秋学期に行った。J-

POSTL エレメンタリーに関しても，その動画の中で一方的に教員から話し，その授業で扱った単元と同じ J-POSTL エレメンタリーの該当部分を読ませて選ばせるという課題を課した。指導上の工夫と留意点としては，全体を俯瞰して欲しいという意図で用語解説以降を除く全ページを網羅した。また，記述文をより自分の身近に感じてもらうために，セクションによって指示を変えた（表２）。

学生の取り組みの一つとして，Week 3,4 で扱った「授業法」の課題で学生が選んだものを表３で表す。

表３

J-POSTL エレメンタリー「教授法」のセクションで学生が選んだ記述文の順位

順位	選んだ人数	記述文
A：話す活動―やり取り		
1	66	5　表情，ジェスチャー，あいづちなどの非言語コミュニケーションを効果的に使って,相手とやり取りができる力を育成するための活動を設定できる。
2	28	3　日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の気持ちや意見を伝え合う力を育成するための活動を設定できる。
3	21	1　児童を話す活動に積極的に参加させるために，協同的な雰囲気を取り出し，具体的な言語使用場面を設定できる。
4	14	2　知り合いや初対面の人と挨拶を交わしたり，相手に指示・依頼などをして,それらに応じたり断ったりするために活動を設定できる。
5	13	4　自分に関する質問を考えたり，相手のことを尋ねたりする短いやり取りができる力を育成するための活動を設定できる。
6	6	6　相手の言った事にたいする確認や聞き返しができる力を育成するための活動を設定できる。
A：話す活動―発表		
1	39	1　自分の好き嫌い，趣味，得意なことなど，聞き手に伝えたい内容を整理してから,基本的な語句や表現を使って紹介することができる力をいくせいするための活動を設定できる。
2	24	5　少ない語彙や非言語コミュニケーションを用いて積極的に話す力を育成するための活動を設定できる。
3	21	2　身の回りの物事や日常生活について，基本的な語句や表現を使って話すことができる力を育成するための活動を設定できる。
4	15	4　強勢，リズム，イントネーションを用いて積極的に話す力を育成するための活動を設定できる。
5	12	6　発話を促すような視覚補助教材，印刷教材など，オーセンティックで多様な教材を選択できる。（N）
6	8	3　自分の居住地，学校生活，友人・知人にかんすることなどについて,基本的な語句や表現を使って自分の気持ちや考えを話すことができる力を育成するための活動を設定できる。
B：書く活動		

1	25	6 児童が慣れ親しんだ語彙や語順を活用して，自分のことや自分の身の回りメモや手紙などでやり取りを行う活動を支援できる。（A）
2	23	1 児童が文字，語句，表現を書き写したり書いたりすることへの意欲を高めるような活動が設定できる。
3	22	3 児童が慣れ親しんだ英語の語句や表現を，大文字，小文字の使い方，語と語の区切り，基本的な記号などを意識して書く活動を設定できる。
4	17	2 児童が慣れ親しんだ英語の語句や表現を，書き写したり書いたりすることができるようになるための様々な活動を設定できる。
5	16	5 児童が書く活動を行う事ができる様々な場面を設定できる。（N）
6	15	4 児童が持っている書く能力を伸ばすために，慣れ親しんだ表現を，語順を意識しながら書き写すことができるような活動を設定できる。
C：聞く活動		
1	67	1 児童の興味・関心に適した教材を選択できる。
2	21	2 児童が英語を聴く前に，教材のトピックについて持っている経験や関連知識を使って内容を予測するよう指導できる。
3	16	3 児童が教材のポイントをしぼって聞くことができるような活動を計画できる。
4	12	4 聞く活動において，発音された文字や，新出単語もしくは難語に児童が対処できるように支援できる。（N）

記述文の最後に（A），（N）という記号がついているが，J-POSTL エレメンタリーの能力スケールで，（A）は 5 年未満の育成教員用，（N）は初任教員用として位置づけられているものである。彼らが選択した上位に（A）が，下位に（N）がきていることを見ると，学生によって記述文に書かれていることを想像できるかについては個人差があるように推測される。学生の振り返りから、良かったコメントとして、「教師として配慮すべき点、考えなければならない点とは何かをかんがえさせられた。」「自分の中ではまだまだ出来ないと思うことがたくさんあった。」「自分に何が足りていないのかを理解し，今後に活かしたいとおもった。」などがあり、自己の客観視と省察ができるようになっていること，逆に，マイナス点として，「実際にしてみないと分からないことが大半だった。」「予測しようにもできない項目ばかりだった。」と記述文がどういう意味なのか想像が難しかったと分かった。

2.2　2021 年度の実践

表４

2021 年度シラバスと J-POSTL エレメンタリー使用箇所及び指示内容

小学校英語(夏期集中講義用)		
Day	Content (General)	課題
Day 1	・Zoom ガイダンス（出席番号奇数者：10 時から，出席番号偶数者：13 時から） ・J-POSTL のビデオ視聴，P9 のリフレクション(省察）の意義について ・小学校外国語活動の歴史 / 外国語教育の意義（Video①） ・小学校外国語の目指すもの / 第 2 言語習得論 / 発達心理学（Video②） ・教授法(1)（Video③） ・教授法(2)（Video④）	課題①：小学校で外国語教育をする意義をビデオの講義を見てから自分の意見を書こう。 課題②：過去の英語の授業を振り返って，教授法のビデオの中でどの教授法であったか，それを踏まえて自分が授業で使いたい授業法は何かを書こう。
Day 2	・Zoom ガイダンス（出席番号奇数者：10 時から，出席番号偶数者：13 時から） ・J-POSTL の P7「自分自身について」をみて振り返ってグループディスカッション後全体でシェア ・Team Teaching・クラスルーム English（Video⑤） ・絵本（Video⑥） ・歌・チャンツ・ナーサリーライム・マザーグース（Video⑦） ・教材 / 教具(Video⑧)	課題③：Team Teaching のビデオをみて，理想とする小学校での指導者体系を自分の意見を書きましょう。 課題④：好きな英語の絵本を 1 冊＋歌を組み合わせ小学校の授業で使う案を考えて書きましょう。対象学年（３～６年の中から 1 学年），選んだ本，選んだ歌を明記してから書きましょう。
Day 3	・Zoom ガイダンス（出席番号奇数者：13 時から，出席番号偶数者：10 時から） ・J-POSTL の P8 の小学校英語指導者の資質・能力についてグループディスカッション後全体でシェア ・評価（Video⑨） ・指導案作成 / 授業観察の視点（Video⑩） ・異文化 / CLIL（Video⑪）	課題⑤：評価のビデオを見て，評価基準の(1)知識・技能，(2)思考力・判断力・表現力，(3)主体的・学びに向かう力，それぞれをどこから見とると良いかの自分の意見を書きましょう。 課題⑥：小学校英語に異文化理解や CLIL を入れる意義を自分の意見を書きましょう。

Day 4	・Zoom ガイダンス（10 時からと 13 時からそれぞれ 30 分ほど Zoom を開けていますので，質問のある学生さんは Zoom に入ってきてください。）	課題⑦：この日中に，LINE のオープンチャットに動画をアップしましょう。 課題⑧：授業案（模擬授業の）の写メもしくは Word/Excel を manaba のレポートから提出 【重要】指導案の中に J-POSTL エレメンタリーのⅡの教授法 p16-26 を見て，その中から自分たちの模擬授業で焦点を当てるものを選んで，どこにその工夫をしたかを指導案の中にいれなさい。 課題⑨：クラスメイトの発表を見て，コメントを書きましょう。（Google forms から提出）

（グレーの網掛け部分は J-POSTL エレメンタリーに関する部分である。）

2021 年度は集中講義の形で「小学校英語」（内容論）を実施した。2020 年度との違いはオンデマンドであることに変わりはないが，3 回（Day 1,2,3）Zoom を使用した。その Zoom 内で，J-POSTL エレメンタリーについて画面越しではあるが，直接学生に説明できたのは良かった。2021 年度は 2020 年度とは違い，使用する部分を限定した。Day 1 で，省察の意義について述べ，ビデオの視聴をタスクとした。Day 2 では，J-POSTL の p. 7「自分自身について」をみて振り返ってグループディスカッション後全体で共有させた。Day 3 では，小学校英語指導者の資質・能力についてグループディスカッションの後，全体で共有させた。2021 年度は実際の記述文に関しては，「授業法」についてのセクションだけ使用することにした。最後に模擬授業をグループで行わせたが，授業案を作るときに，J-POSTL エレメンタリーの授業法の中の記述文から 1 つ選択して，その記述文を踏まえて工夫をし，その事を指導案に明記をするように図 1 のようにサンプル指導案に加えた。

図 1
指導案に記載した J-POSTL エレメンタリーの記入例

☆☆☆J-POSTL☆☆☆
選んだ記述文： A 話す活動の A-1 の 1
その記述文を踏まえて工夫した点：積極的に話す活動に参加させるために、ほめ言葉をたくさん使って勇気づけた。

下記が，学生が記入してきた一部であるが，やはり一緒に記述文を読み解けていなかったことで，記述文一つ一つを想像しにくかったようである（表 5）。

表５

学生が選んだ模擬授業に大切にしたい記述文と使用例

話す A-I-I	・児童を話す活動に積極的に参加させるために，指導者と児童や，児童同士のやり方を多く取りいれられるよう工夫した。 ・グループ活動を導入するとともに，教師は英語を用いてヒントを出したり，誉めたりした。 ・友達へのインタビューと Bingo を組み合わせたゲームを取り入れる。 ・児童を話す活動に積極的に参加させるために，ゲームを通して興味をもって楽しく活動しながら既習の単語を反復練習し，言い慣れる機会を設け，自信をつけさせた。 ・自分に関する質問に答えたり，相手のことを尋ねたりする短いやり取りができる力を育成するために，みんなが楽しい雰囲気で取り組める授業をする
話す A-Iの２	クラスの友達と挨拶を交わす活動を設定した。
話す A-Iの３	積極的に自分の気持ちを伝えるために，クイズ活動をたくさん設けた。
話す A-Iの４	・自分の書いた短い文を友達と伝え合う時間を長く作り，自信を持って話せるよう ・教育者が積極的に構文を使い，児童が楽しんでやり取りをできる環境を整えた。 ・すきな曜日について質疑応答をするなかで，会話をする楽しさや進んで取り組めるような環境づくりを行う ・自分に関する質問や相手のことを尋ねたりする短いやり取りを授業に取り入れた。またその際に，使用する英単語やキーフレーズについて教えた。 ・自分の質問に答えたり，相手のことを尋ねたりすることができるようにペア活動を取り入れた。 ・英語を確認した後に，取り組めるようにした。 ・友達同士で尋ねたり答えたりできるように，そのような場面を設けた。 ・みんなが積極的に参加しやすいように楽しいゲームを考えた。
話す A-I-5	教育者が積極的にジェスチャーや表情を使い，児童が使いやすい環境を整えた。
話す A-２-I	・自分の好き嫌い，趣味，得意なことなど，聞き手に伝えたい内容を整理してから，基本的な語句や表現を使って紹介する力を育成するためワークシートを取り入れる。 ・ゲームなどを取り入れることで，子どもたちが楽しく英単語を覚えられるようにした。
聞く C-I	ただ教師の発言を聞いてりぴートするだけではなく，興味をもてるよう聴きなれた音楽をしようした。
聞く C-4	新出単語に児童が対処できるように，繰り返し聞く機会を設けた。
書く活動	周りの意見を聞いてから書くのではなく，どんな意見も否定せず，肯定して，意見できる場を作った。
語彙１	児童とのやり取りを多く設けることで，慣れ親しんだ語彙や楽しく学んだ語彙を使用できるように工夫した。
語彙２	難しい単語などは前もって調べて正しいものが提示できるようにする。 児童自身がその単語の意味をより理解できるよう，児童に予想を立てることを促してから意味伝えた。

３．まとめと今後の活用計画

過去 2 年の実践では，2020 年度は半期全面オンデマンド（一斉 Zoom なし），2021 年度は集中講義で 15 回の授業を 4 日（1～3 日目は 90 分授業 4 コマ分，4 日目は 90 分授業 3 コマ分）で，録画をみて課題を提出するオンデマンド形式は変わらないが，Zoom を 1～3 日目の 40 分～1 時間ほど取り入れ，その中で J-POSTL エレメンタリーの内容を Zoom 越しではあるが，学生とインタラクションを行いながら取り組むことができた。2020 年度はオンデマンドのみという教員から一方通行の導入であったが，学生のコメントから，何人かは省察の意義を理解しているようであった。しかし，予測しようにも予測のしょうがない項目ばかりだったというコメントもあり，教壇に立ったことのない学生に記述文を 1 人で想像させることは難しかったと考える。来年度からは対面で 15 回の授業が行われるものと推察されるので，学生に直に話をし，グループディスカションを行わせるなど工夫をして導入をしていきたい。自己評価もプレとポストで行わせてみて，その差もみたいと考える。教育実習に途中で行く学生もいるので，教育実習に行った学生に体験を話してもらう機会を設けたりしながら，J-POSTL エレメンタリーの有用性を訴えていきたい。

謝辞

本実践は，JSPS 科研費 19H01288 課題名「省察ツールとしてのポートフォリオの体系化と活用ガイドの開発」の助成を受けたものです。また，実践を行った大学及び学生に感謝をします。

引用文献

大学英語教育学会（JACET）教育問題研究会（2020）.『小学校英語指導者のポートフォリオ（J-POSTL エレメンタリー）【暫定版】』大学英語教育研究会（JACET）教育問題研究会

大学英語教育学会（JACET）教育問題研究会（2021）.『小学校英語指導者のポートフォリオ（J-POSTL エレメンタリー）』大学英語教育研究会（JACET）教育問題研究会